菅 孝 町政スタート

「人・地域を大切に」子どもたちにつなぐまちづくりを



令和８年９月６日に行われた最上町長選挙で初当選した菅孝町長が、１０月５日に就任しました。任期は、令和８年１０月５日から令和１２年１０月４日までの４年間です。

菅町長は、「人・地域を大切に」を信条に掲げ、町民の皆さんや町職員との対話を重ねながら、常識にとらわれない柔軟な発想で、子どもたちにつなぐまちづくりを進めていく考えを示しています。

就任のあいさつ

未来に誇れる最上町を目指して

町民の皆さま、このたびの最上町長選挙におきまして、多くの皆さまからご信任をいただき、最上町政を担わせていただくこととなりました。その責任の重さに、改めて身の引き締まる思いであります。

これまで6期24年の長きにわたり、髙橋重美前町長が築いてこられた町政の歩みと成果を大切に受け継ぎながら、新たな視点と柔軟な発想を取り入れ、最上町のさらなる発展に全力を尽くしてまいります。

私が町政運営の基本に据えるのは、「人・地域を大切に」という考え方です。町民の皆さま一人ひとりの声に耳を傾け、地域が抱える課題をともに考え、対話を重ねながら、町政を進めてまいります。

最上町では、人口減少や少子高齢化、地域産業の担い手不足、子育て・教育環境の充実、高齢者福祉、豪雪への対応など、さまざまな課題が山積しています。これらの課題に正面から向き合い、常識にとらわれない発想と行動力を持って、一つひとつ着実に取り組んでまいります。

特に、産業振興と定住促進、子育て・教育の充実、高齢者・福祉対策を町政の大きな柱として、町民の皆さまが安心して暮らし、若者が帰ってきたいと思えるまち、子どもたちがふるさとに誇りを持てるまちを目指します。

町民の皆さま、議会、町職員、企業、関係団体の皆さまと力を合わせ、子どもたちにつなぐ持続可能な最上町を築いてまいります。町政への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。





最上町長　菅孝

地域と共に歩んできた 菅 孝 町長



菅町長は、昭和３７年１１月に最上町東法田に生まれました。

昭和５６年に山形県立新庄北高等学校向町分校を卒業後、家業の農業に従事。稲作と肉牛肥育を中心に、３０年以上にわたり地域農業の現場に立ってきました。

農業を取り巻く環境が大きく変化する中、地域の生産者とともに課題に向き合い、持続可能な農業や担い手の育成に取り組んできました。

農業の現場から

平成２６年から平成２９年まで最上町農業委員を務めたほか、最上地域農業士会会長、山形県指導農業士会副会長などを歴任。農業経営の経験を生かし、地域農業の振興と次世代の担い手育成に携わってきました。

困っている人の声を届けたい

菅町長が町議会議員を志す契機の一つとなったのが、平成３０年の豪雨災害です。被災後、営農を断念せざるを得ない生産者の姿を目の当たりにし、「困っている人の声を届け、力になりたい」との思いを強くしました。

町議会議員から町長へ

令和元年９月、最上町議会議員選挙に初当選。令和５年に再選され、２期目の途中まで議員を務めました。議会では、産業振興策、人口減少下における公共施設の維持管理、子育て、教育、高齢者福祉など、町政の幅広い課題を取り上げました。







プロフィールと主な経歴

氏名	菅　孝　（かん　たかし）
生年月	昭和３７年１１月生まれ
出身	東法田
最終学歴	山形県立新庄北高等学校向町分校卒業
趣味	読書、音楽鑑賞、スキー
好きな音楽	ジャズ、クラシック
好きな作家	藤沢周平
家族	母、妻、長男、長女
主な経歴 役　職	最上町議会議員、最上町農業委員、最上地域農業士会会長、山形県指導農業士会副会長、山形県指導農業士、山形県立新庄北高等学校最上校同窓会会長など

菅町長が目指すまちづくり



常識にとらわれない発想で 子どもたちにつなぐまちづくり

町では、人口減少と少子高齢化が急速に進み、地域産業の担い手不足や空き家の増加、地域交通、子育て・教育、高齢者福祉など、暮らしに関わる多くの課題が生じています。

菅町長は、町民や町職員との対話を重視し、地域の実情を丁寧に把握しながら、常識にとらわれない柔軟な発想で課題の解決に取り組む考えです。町政の重点政策として、次の３つの柱を掲げています。

1 産業振興・定住促進

地域の仕事と暮らしを次の世代へ



農業生産基盤の整備や事業承継支援、観光振興、空き家・空き店舗の活用など、地域の産業を支え、若者が住み続けたくなるまちをつくります。

主な取り組み

- 農地の基盤整備と農作業の効率化
- 農業・観光業などの事業承継支援
- 町の温泉街や前森高原などを生かした観光振興
- 空き店舗を活用した起業支援
- 空き家バンクの強化
- 空き家リノベーション費用への補助拡充
- ２地域居住などを通じた関係人口の創出

2 子育て・教育の充実

安心して産み育て、学べる町へ



若者が最上町に帰ってきたい、最上町で子どもを産み育てたいと思える環境づくりを進め、子どもたちが安心して過ごし、豊かな感性を育むことができるまちを目指します。

主な取り組み

- 結婚につながる出会いの機会支援
- 産前産後の支援
- 出産祝い金の拡充
- 多子世帯への支援
- 屋内型の多世代交流施設の創設
- 図書館の整備
- 子どもの居場所づくり
- 社会の変化に対応した教育環境の充実

3 高齢者・福祉対策

誰もが安心して暮らし続けられる町へ



高齢者をはじめ、生活上の困難を抱える方に必要な支援が届く仕組みを強化し、移動手段や買い物環境の確保、地域包括ケアなどに取り組みます。

主な取り組み

- デマンドバスの利便性向上
- 買い物弱者への支援
- 高齢者の孤立防止
- 高齢者世帯の住まいへの支援
- 間口除雪支援の拡充
- 除雪の担い手確保・育成
- 地域包括ケアの強化

町の未来を支える交通基盤



産業、観光、医療、福祉、教育など、町民生活の基盤となる交通ネットワークの確保に向け、次の事項に取り組みます。

主な取り組み

- 陸羽東線の早期復旧
- 国道 47 号の高規格化
- みちのくウエストラインの早期実現

町民の皆さんと共に、一歩ずつ、そして着実に町政を進めてまいります



町民の皆さんの声に耳を傾け、議会や町職員、企業、関係団体の皆さんと力を合わせながら、常識にとらわれない柔軟な発想で、持続可能な最上町を築いていく考えです。

「未来に向けた４つの約束」

１．町民の声に耳を傾ける

町民の皆さん一人ひとりの声を大切にし、地域の課題をともに考え、対話を重ねながら町政を進めます。



２．町職員とともに考え行動する

町職員との対話を重視し、現場の意見を取り入れながら、スピード感を持って課題の解決に取り組みます。



３．すぐにできることから実行する

町民の暮らしに直結する課題については、できることから着実に取り組み、町民の実感につなげていきます。



４．次の世代につなぐ町をつくる

若者が帰ってきたいと思えるまち、子どもたちがふるさとに誇りを持てるまちを目指します。





最後に町民の皆さんへ

最上町には、豊かな自然や農業、温泉、地域のつながりなど、先人から受け継いできた多くの財産があります。一方で、人口減少や少子高齢化など、これまでにない厳しい課題にも直面しています。

私は、町民の皆さまとの対話を大切にし、それぞれの地域や世代が抱える声を町政に生かしてまいります。町民の皆さまと職員が知恵と力を合わせれば、最上町にはまだ多くの可能性があります。

若者が帰ってきたくなる町、安心して子どもを産み育てられる町、高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる町を目指し、全力で取り組みます。

未来に誇れる最上町を、皆さんとともにつくっていきましょう。